

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1【生きる】 3【そなえる】	①【かけがえのない生命】すべての生命は、かけがえのないものであることを実感し、大切にす。 ⑮【東日本大震災の様子と被害の状況】平成23年3月11日に発生した、東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解する。	総合的な学習の時間、道徳、学級活動、学校行事
<p>【題材】 被災地訪問学習を目的とした宿泊研修を通して、東日本大震災発生当時の被災の状況や復興の状況を知り、震災津波を踏まえた生命の大切さやありがたみを知り、自分たちの生き方を考える。</p> <p>【対象】 2学年男子15名、女子10名、計25名</p> <p>【実践の概要・詳細】 湯田中学校2学年25名は、11月11日(火)～12日(水)に釜石市と大槌町を訪問し被災地訪問学習を実施した。現地ガイドとともに釜石の避難路を実際に歩いてみる体験や、吉里吉里海岸の清掃活動から、体験を通して震災津波の被害を実感した。また、被災された方々の当時の避難の様子や復興状況についての講話から、東日本大震災津波における沿岸の被害状況や遅れている復興の様子についての理解を深めた。復興のためにできることを精一杯取り組み、輝いている講師の方々の生き様に触れることで、自分たちの生き方を考える機会となった。 教育課程上は道徳・学級活動・総合的な学習の時間を活用し、事前学習では生命の大切さや集団の生活向上について、事後学習では学習のまとめやレポート作り、発表会の準備等を行った。</p>		
<p>【実践の詳細】</p> <p>1 被災地学習の活動</p> <p>活動①「震災からの教訓と防災学習」(避難道路・鶴住居地区)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="129 954 1043 1312" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>釜石ボランティアガイドの菅原さんに釜石駅からバスに同乗してもらい研修を行う。『釜石の奇跡』と言われた小中学生や市民が実際に避難した階段を上がり、高台から釜石湾を見下ろす。避難訓練の時から教えられていた『津波でんでんこ』のおかげで、99・8%の児童・生徒が避難して生き残ったと聞き、生徒は避難訓練の大切さを実感することができた。 甚大な被害直後の混乱の中、避難所のトイレ清掃を毎朝行う中学生の姿に力づけられたこと、自分たちと同じ中学生が「希望の光」になれるということを真剣な表情で聞いていた。 釜石『復興の鐘』に込められた「鎮魂」「復興」「記憶」「希望」の4つの言葉は、生徒の心に深く刻み込まれた。</p> </div> <div data-bbox="1066 857 1441 1099" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="1066 1115 1374 1149" style="text-align: center;"> <p>< 避難道路を上がる ></p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="129 1350 1043 1709" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>活動②「命の尊さと助け合い」(陸中海岸青少年の家)</p> <p>山田町出身の嶋崎先生からの講話。震災当時は田老第一中学校に勤務されており、生徒たちと一緒に山に逃げ、山の上から田老の街が津波に飲み込まれる様子を呆然と見るしかなかったことや、震災で大人たちが深く傷つき絶望感に覆われていた時の中学生の活躍について具体的に聞く。中学生たちがお年寄りや小さい子供をおんぶし山を登って避難した様子や、避難所では率先して元気に行動し、多くの人たちを励ましていた事実を聞いた。「命でんでんこ」とは自分たちの命は自分で守ること、「命があるからまた会える」「悲しみや辛さがあつたからこそ学んだ事もたくさんあつた」という力強い言葉に心を揺さぶられた。</p> </div> <div data-bbox="1066 1234 1441 1442" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="1066 1458 1310 1491" style="text-align: center;"> <p>< 避難道路にて ></p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="129 1749 1043 2074" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>活動③「心をこめた吉里吉里海岸の清掃活動」(吉里吉里海岸)</p> <p>生徒たちが自ら被災地でできることを考え企画した、吉里吉里海岸での清掃ボランティア活動。すがすがしい朝の海岸を歩きながら心をこめてたくさんゴミを拾う。工事に使われたロープ等の残骸のほか、砂の中に埋もれていたかばんや壊れたおもちゃなど生活感のあるものなども次々と見つかる。 青く美しい海の風景と、多くの人が津波によって犠牲になったという現実のギャップに戸惑い心を痛めている生徒もいた。今年になって、やっと海水浴ができるようになったと聞き、復興には時間がかかっていることを実感する。</p> </div> <div data-bbox="1066 1509 1441 1751" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="1066 1767 1401 1800" style="text-align: center;"> <p>< 中学生の活躍を聞く ></p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="129 2074 1043 2107" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>活動④「心をこめた吉里吉里海岸の清掃活動」(吉里吉里海岸)</p> <p>生徒たちが自ら被災地でできることを考え企画した、吉里吉里海岸での清掃ボランティア活動。すがすがしい朝の海岸を歩きながら心をこめてたくさんゴミを拾う。工事に使われたロープ等の残骸のほか、砂の中に埋もれていたかばんや壊れたおもちゃなど生活感のあるものなども次々と見つかる。 青く美しい海の風景と、多くの人が津波によって犠牲になったという現実のギャップに戸惑い心を痛めている生徒もいた。今年になって、やっと海水浴ができるようになったと聞き、復興には時間がかかっていることを実感する。</p> </div> <div data-bbox="1066 1823 1441 2065" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="1066 2080 1401 2114" style="text-align: center;"> <p>< 吉里吉里海岸の清掃 ></p> </div> </div>		

活動④「街を周り、被害跡と復興の様子を視察」(大槌地区)

震災津波のモニュメントとして残された大槌町旧役場を見学。津波が来た時刻で止まっている時計をみて呆然として声が出ない。「何もなかった。何も言葉にできなかった。ここに何があったか想像もできない。」という思いの生徒。旧役場前に設置された慰霊碑に静かに手を合わせ復興の祈りを捧げた。

大槌のシンボルといわれる蓬莱島を見学。壊れた鳥居や流されたままの弁天様。いつか戻ってきてほしい、大槌をずっと見守っていてほしいと願う。



<旧役場前で祈りを捧ぐ>

活動⑤「大槌の歴史と現状を学ぶ」(江岸寺跡、大槌中央公民館)

江岸寺の大菅生副住職より講話をいただく。「自分の目の前で息絶えていく人を、助けたくても助けられない悔しさに気が狂う程だった」「世の中には希望だけではなく絶望というものもある」という言葉が心に突きささる。命の尊さと生きていることへの感謝の思いを、多くの生徒が感想に記していた。

続けて、中央公民館で、元民生委員の鈴木さんから大槌の歴史や産業、復興の状況について話を聞く。「大槌は希望をもって前に進んでいる」という言葉に生徒も安堵し、自分たちもさらに頑張りたいと感ずることができた講話となった。



<江岸寺跡にて>

活動⑥「震災時の様子を知り命の尊さと助け合いを学ぶ」(宝来館)

宝来館の女将、岩崎さんは、津波に流されながらも助かった方である。地域を元気にするために、震災後から今まで休まずに日々奮闘している生き様に勇気もらう。震災後初めて届いた救援物資が遠野・花巻・和賀の農家の米だったことを聞き、岩手は長い歴史の中で内陸と沿岸の人々がずっと助け合って生きてきたこと、人と人との繋がりや共に生きる大切さを知ることができた。また、「勉強をしたくてもできなかった子供たちがたくさんいる。その人達の分まで10倍勉強しなさい」という激励を受け、それぞれに自分を振り返っていた。



<大槌の被災状況を聞く>

2 生徒の感想

- 今回の宿泊研修では、改めて“命の大切さ”について実感しました。それぞれの場所で、それぞれがそれぞれの最善を尽くすこと、今、自分たちは選ばれて生きているのだということをもっと心にとめながら普段の生活にのぞみたいです。また、日常生活の小さなこと一つ一つに感謝しながら、自分たちの町を、岩手を、誰もが来たがるような、明るく、楽しい、元気な町に、岩手にしていきたいです。
- いつも親に迷惑をかけていると思うので、震災時は親を亡くした方もいるのでわがままなこと言わずに生活したい。スポーツが好きや勉強が好きや方が震災で命をおとしているのでその人たちの分までいっぱい勉強して、精いっぱいプレーしていきたい。避難訓練を自分たちは少しふざけた部分があったと思うのでそこを真剣にやらなければいけないと思ったのでしっかりやりたい。人の話していることを考え、その人の気持ちを考えたい。
- 今回は震災のことをたくさん学びました。これが被災地を助けるきっかけになるようにしていきたいです。女将さんのように明るく生きていきたいと思いました。震災の爪痕は残っています。でも前に進んでいる方々もいます。そのことを胸にきざみ生きている事に感謝したいです。生きたくても、生きられなかった方たちの分まで生きていきたいです。
- 「命てんでんこ」「自分の命は自分で守る」「何があっても命が大事」「人の強さ、優しさ、知恵」と、「命の尊さと助け合い」を学びました。私たちとおなじくらいの生徒さんたちが「何でもやります、何でも言ってください。」と言ってボランティアをしたというお話を聞き、とても感動しました。また、私もそんな人になりたいと思いました。人の力はすごいと改めて感ずることができました。

【考察】

- ・被災地を訪問し被災された方々を講師として直接話を聞くことで、震災や被災の状況、復興の状況を理解し、生命の尊さや日常の生活の有り難さを実感することができた。
- ・哀しみに負けず今を精一杯生きている講師の方々生き様に触れ、自分の生き方を考える機会となった。
- ・毎年行ってきた吉里吉里中との交流会は、両校の事情で取り入れることは難しかった。宿泊研修で学んだことから今後の被災地支援や交流のあり方を検討していきたい。